

しんぽう文芸

俳壇 山田省吾選

◎内房の砂丘に見やる青葉潮 甲府 長瀬みち子

【評】内房は、千葉県西部東海津浦水道に面する一帯。砂丘から見やる房総沖の青葉潮は、北上する海流の黒潮である。これは、暖流で藍色が濃く、黒色に見えるところからこの名がある。青葉の頃の黒潮を漁師は青葉潮と呼んでいる。

柳壇 坂田よし江選

◎聞き役に徹し痛みを和らげる 甲州 鶴田 甲敬

【評】辛い時、聞いてくれる人があるだけでも救われます。温かい心で支えてあげて。

◎次の世へ感謝でたたむ破れ傘 市川三郷 岡部 登

【評】ボロボロの傘になるまで生き頑張り続けた日々感謝し、悔いなくハトンを託す人生。

◎やれた事褒めてひと日をしめくくる 岡山 久宗 明子

【評】辛い介護の毎日ですが、些細な事でも出来た事を褒め、一日締めくくる明るい心。明日はもっと出来ます。

◎丸い背がガラスに映り急ぎ足 甲府 遠藤 武文

【評】丸い背がガラスに映り急ぎ足を感じ思わず足を早める姿。経験ありますね。

歌壇 長瀬和美選

◎招かれて立礼席に飲む抹茶八橋渡すあやめの園に 甲州 岡 けさ子

【評】「立礼」とは、テーブルに道具を飾り付けて椅子に座する点前のこと。正式な茶室や座敷がなくとも、お茶を点てることのできる庭園でも気軽に茶席を設けることができる。爽やかな自然の光の中で、季節の花々に囲まれて飲むお茶は、また格別の味わいだろう。下の句の描写が端的で、情景が鮮明に浮かび上がっている。

◎星涼し海に迫り出す露天風呂 富士吉田 小林 祥子

◎舞子来て踊る今宵の夏座敷 富士吉田 青柳 時子

◎絢爛の陽門門若葉風 茨城 山田 栄仁

◎満天の星に声なし青葉木茂 大月 中村 照子

◎明易や香の揺蕩るペンダー 甲斐 長田かつ子

◎山つづき霊場を歩す四国堂 身延 若狭 政雄

◎幹立歌舞伎の里の藤揺る 身延 赤池 善光

◎踏青や口ついで出る重歌 大月 湯沢 正典

◎お茶席やあやめ眺むる城の跡 甲州 岡 けさ子

◎華やける三葉つづきや富士稲野 甲斐 大森 淑江

◎五月富士映る荒川あずさ行く 甲府 桑原 博子

◎文学館池つばいに花菖蒲 甲府 伊藤 隆雄

◎石仏露の葉陰に鎮座せり 甲府 横内 晴樹

◎木下閣鳥と親しむ山歩き 甲府 鈴木まさお

◎納骨の列の過ぎりぬ栗の花 甲府 内藤 勝人

◎伽羅ぶきの藤探りに行く長野かな 甲府 今村 絹枝

◎花鉢の葉陰で憩ふ青蛙 甲府 石川 昭三

◎谷風に草笛途切れ丸太橋 甲斐 田中 修司

◎子育てのつばめ賑はふ無住寺 甲斐 大石 保夫

◎垣に這ふ赤きニバラ目を引きし 市川三郷 立川 亮子

母の日にくらべ父の日静かです
用事などおきろく夢中なり
新緑の森に抱かれて山歩き
自分史の余白秘密の頭文字
露天風呂景色にみとれ長湯する
失敗を恐れぬ背を押し拍手
久々の母の笑顔がいとおしい
自転車で路傍の花に励まされ
ホッとする帰郷早上げる謝恩塔
百合の花豊洲築地と萎れそう
暑い春のよう上着脱ぐ
雨の音寂しく沁み入る夕の夜
弱音吐くまなざし何か求めている
遠くなる絆を惜しむ過疎の里
高齢の特典美術館無料
常連が乗らぬ電車にふと不安

甲府 仲沢 弁慶
甲府 内藤 勝人
大月 鈴木 民生
甲州 武井 透江
甲府 小尾 康弘
甲府 風間なごみ
甲府 有村 中子
群馬 高橋 空
甲斐 山口 貞雄
市川三郷 横森千代乃
甲府 横森千代乃
市川三郷 村松 玉江
甲府 渡辺みの江
甲府 保坂 春男
甲府 原 正二
北杜 五味 今天

◎アイス舐め自転車こぐ若者よ北朝鮮をどう思うのか
○しっかりと握りおらねば指の間をこぼれゆくも自由こいつは
○臍を決すことあらずしてせめても眉の形整える
老いてなお相撲観戦止められぬ小兵力士が巨漢転がす
禁じ手にあらねど見るに見苦しき張り手持ち上げ喉輪なる技
春の田に水引く音の絶え間なく清らかに響く夏の北富士
一年を子の成長を見守れる如くに苗を水田に植える
青空を映し波起る子田に田を播き白鷺くたむ
四十雀五十雀なる小鳥いて雛を育む姿かわゆし
郷公の休みなく鳴く激しきは子を捜している母の声とも
雑木林の明るむ空に枝のへて白く咲きたり山の桜は
歯の検査なし異常のあらざれば満ち足りて過ぎず午後ひひ時
ライオンと言いつて幼子の指す大はゴールデンレトリバーゆつくり歩む

南アルプス 駒井 春美
中央 鈴木 節子
中央 細田 松美
富士川 依田 茂
富山 依田 悦子
富山 菅吹 土屋 悦子
富山 菅吹 土屋 悦子
中央 渡辺 勝代
甲府 菊嶋 清子
甲斐 山本 初子
甲府 吉田 雅子
甲府 内藤 勝人

随筆 坂田よし江

川柳を始め聞かない昭和五十五年頃山梨県下各地で川柳大会が開催されておりました。甲府市、山梨市、塩山市、現甲州市、市川大門町(現市川三郷町)、上野原町(現上野原市)、櫛形町(現西町)いずれも現南アルプス市、増穂町(現富士川町)も花盛りでした。先輩に誘われ、私が初めて大会へ出席したのは五十六年の甲西町の大会でした。八十名くらい出席者の中で地元の人を除くと女性ばかりで、場違いの所へ来てしまったと困惑し



た。初めての会場で、騒音から離れた静かな場所に立派な建物、女園では見事に咲いた君子蘭、鉢が出てきてくれ、安らぎを覚えました。十七句の投句でしたが、そのうち二句が佳句に選出され、内接待、司会など活気に溢れていました。九十名近い出席があり、午後一時より会は始まり、各分野の来賓の方々の、時には川柳にまつわるエピソードな交際の祝辞に感激したあとお待ち待たされた披露です。佳句四十句、十秀、五客、三才と五十八句が入選です。予選は世相を切った留飲が下がるような句、なるほど大きく響く句、身にすまされつゝ水口にする意味で味わう事が出来るの句、ユニークな句は会場がどっと笑いに沸く...など

時事川柳 井上信太郎選

汚染水めぐり都のすきま風
お友だち同士やっばりホロが出た
女房役 菅の人相悪くなり
文科省 口裏合わせハルサル 市川三郷 望月月川
トランプの手持ちはすべてジョーカーか 甲府 小林 衛

一句、市場なる。二句、慣れ。三句、似てくる。四句、腐つて。五句、そうかも。

選者吟 暗い記事ばかり眼鏡がまた曇る

い。宛先は短歌二400-0222南アルプス市飯野4168-15長瀬和美、俳句二409-13114南巨摩郡身延町道144山田省吾、川柳二400-0807甲府市東光寺下目20-7坂田よし江、時事川柳二400-0502南摩郡富士川町最勝寺8288井上信太郎の各氏宛まで。

文芸誌 6月号

▼俳句「郭公」主宰井上康明の巻頭「河鹿」は「夜の谷に浮かぶ白雲河鹿鳴く」など8句。同人句は決闘のあと「雨に咲く真紅の木瓜の艶いよよ山田省吾(本紙俳壇選者)が各5首。40%。

▼川柳「甲斐野陽春」下川柳大会の各宿題32位。未来「戦ない未来子供に残したい」井上紀子、芭蕉の「子も師の教えにも節がある」瀬文男、支える「支えたり支えられたり日々トラマ」望月双葉、保つ「点滴の雪のちの灯は消さず」井上信太郎。36%。

▼川柳「載」表紙句は「一人にはなりたくなしならせぬ」村下正子。「文案の愁嘆場を見せられてはもうな気分」とは甲中久仁夫評。作品は高いのも値段が美味を加勢する」成田領「納得の喉を潤す里の水堤

わす度曲げればならぬ我も老いたり采草千鶴、「太き幹に根付きし百合の枯れ

郷土の作家を紹介

南アルプス市立美術館 原寿美は旧白根町生まれ。去の実績で鑑賞の必要がない(向山富士雄館長)で同市出れ。南画家の巨匠・大平華いと認められ、これまで自身の画家・原寿美の作品を展示する「没後10年 原寿美」移りゆく季節を描くが開かれていた。同展は同館が企画した、郷土シリーズ「南アルプスと富士川」流泉に師事し、日本最大の水彩画の作家たち」の第一弾。墨画団体・日本南画院で過40点など、山梨の風景をほ

7月25日まで 原寿美展

南アルプス市立美術館 館所蔵の作品

今展では、同館所蔵の作品

25日午後1時30分から甲府・びゅあ総合。500円。元外務省国際情報局長で外交評論家の孫崎享(うける)さんが「東アジアの平和と日中米関係」と題し講演。問い合わせ・山梨平和ミュージアム ☎055(235)5659

講演会 ●YPM (山梨平和ミュージアム)10周年記念行事

INFORMATION アート情報

●第27回スクエア展 20日から25日まで県立美術館県民ギャラリーA。県内外で活動するメンバー9人の絵画

吉川さんの作品

知県在住)の焼き物、三浦さん(長野県在住)のガラス作品を展示。問い合わせ・同ギャラリー ☎055(227)7611

●第54回西美会展 20日から25日まで県立美術館県民ギャラリーA。同会は甲府西高とその前身の甲府高

西沢武徳さんの作品

展で、1991年の発足以降、毎年同館で展示を行っている。今展も油彩、アクリル画、混成技法など、100号前後の大作を中心に展示。また、メンバーの西沢武徳さん(北杜市)が個展形式で作品を並べる。問い合わせは同事務局の小林さん ☎0551(32)6304

●吉川千香子・三浦世津子展 16日から25日まで甲府・アサヒギャラリー。吉川さん(愛

女、甲府二高の美術部OBらと在校生で組織されている。日